

総合的な教師力向上のための調査研究事業 研修会 (2014. 9. 10 熊本大学)	教科教育と特別支援教育の コラボレーション ー音楽科を事例としてー 特別支援教育学科 藤原志帆
---	---

教科教育と特別支援教育のコラボレーション ー音楽科を事例としてー	1. 教科教育と特別支援教育の コラボレーションがめざすのは… 2. 通常の学級における音楽科授業の試案 3. 「交流及び共同学習」における 音楽科授業の活動例
---	---

教科教育と特別支援教育の融合(桂, 2012)	教科の優れた授業は、授業者本人が意識するし ないにかかわらず、特別支援教育の視点にも支 えられている。<u>優れた授業とは、全員が活躍する 授業である。そこには、特別な支援が必要な子を 含めて、全ての子どもたちが活躍する工夫や手 立てが必ずある。</u>
--------------------------------	--

教科教育と特別支援教育の融合(桂, 2012)	授業のUDを目指して教科教育と特別支援教育 の融合を図るとは、<u>一人残らず全員が授業で活 躍できるようにするために、「優れた教科の授業 から特別支援教育の視点を導き出すこと」や「全 体指導が困難な子への個別指導の方法や教科 の補充指導のシステムを、特別支援教育の研究 成果に学ぶこと」である。</u> 教科教育と特別支援教育の二つの研究は、全 ての子どもが活躍する授業において、「別物」で はなく「連続的」なのである。
--------------------------------	---

高等学校の授業研究会の特色と進め方 (笹森, 2012)

生徒一人ひとりに対するきめ細やかで丁寧な指導を行うためには、障害の有無にかかわらず、個々の生徒の認知スタイルや学習のつまずきの状態に応じた支援を工夫することが大切である。このような支援を行うことは、個々の教員の授業力・指導力の向上につながり、授業が全体としてわかりやすいものとなっていく。さらに、学級・学校全体の学習意欲の増進や学力の向上等にも資するものと考えられる。特別な支援をあたりにまへの支援にしていきたいために、特別支援教育の視点から取り組んでみてはどうだろうか。

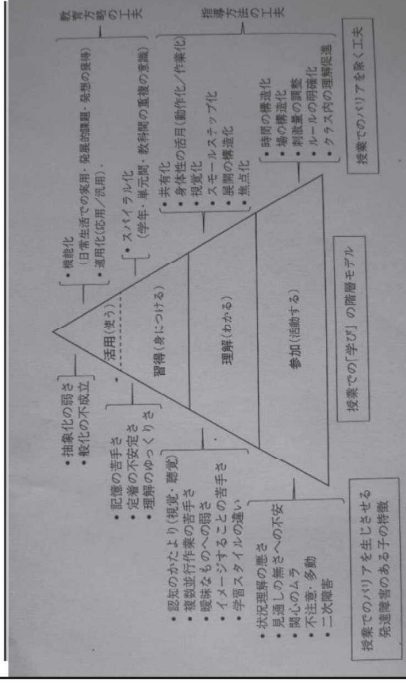
授業研究会のこれから(柘植, 2012)

各教科が、すでに多様な学びの児童生徒への具体的な対応を進めてきていて、豊富な蓄積もあることから、それらを特別支援教育の配慮にどのように取り込んでいくか、関連づけていくかを具体的に個々の指導場面において実践し、そのことについて授業研究会で取り上げていくと良いだろう。発達障害のある子どもへの対応は、他の子ども「確かな学び」や「豊かな学び」にも通ずることだろう。

学びのユニバーサルデザイン・ガイドライン (ギヤスト, 2011)

- I. 提示に関する多様な方法の提供
 - 1: 知覚するための多様なオプションを提供する(1.1~1.3)
 - 2: 言語、数式、記号のためのオプションを提供する(2.1~2.5)
 - 3: 理解のためのオプションを提供する(3.1~3.4)
- II. 行動と表出に関する多様な方法の提供
 - 4: 身体動作のためのオプションを提供する(4.1~4.2)
 - 5: 表出やコミュニケーションに関するオプションを提供する(5.1~5.3)
 - 6: 実行機能のためのオプションを提供する(6.1~6.4)
- III. 取り組みに関する多様な方法の提供
 - 7: 興味を引くために多様なオプションを提供する(7.1~7.3)
 - 8: 努力やがんばりを継続させるためのオプションを提供する(8.1~8.4)
 - 9: 自己調整のためのオプションを提供する(9.1~9.3)

授業のUD化モデル(小貫, 2013)



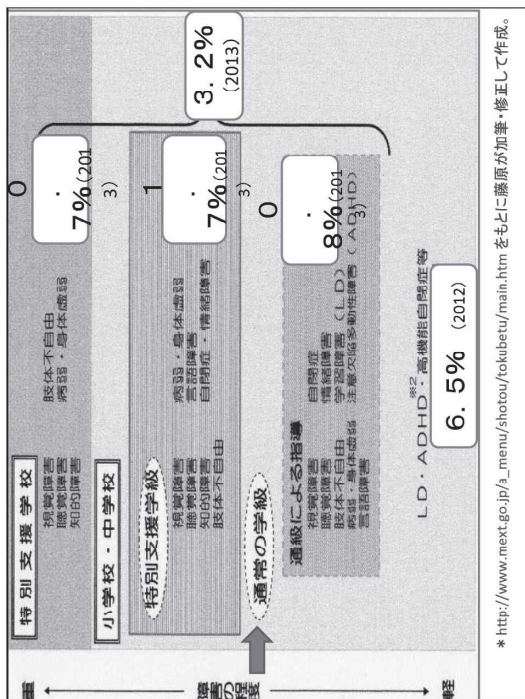
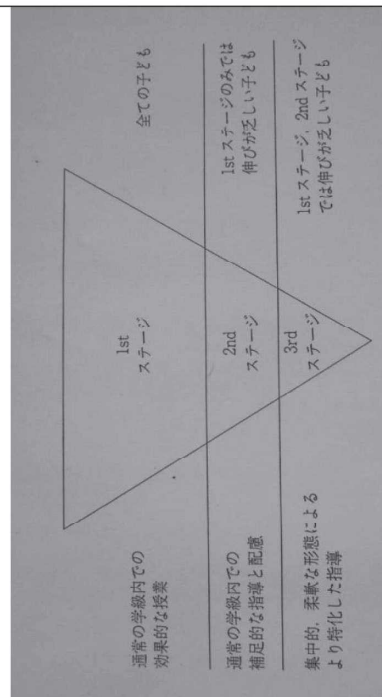
教科教育と特別支援教育のコラボレーション ー音楽科を事例としてー

1. 教科教育と特別支援教育の コラボレーションがめざすのは・・・

2. 通常の学級における音楽科授業の試案

3. 「交流及び共同学習」における 音楽科授業の活動例

通常の学級における 多層指導モデルMIMの構造 (海津ほか、2008)

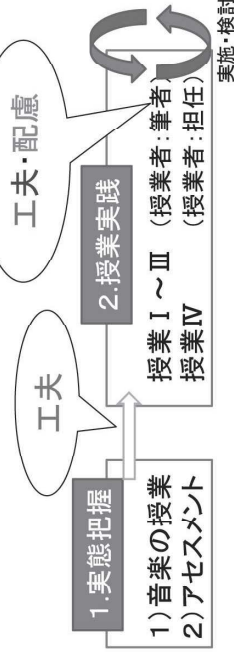


小学校音楽科における授業のユニバーサルデザイン化
ー音楽鑑賞学習に焦点をあててー(新井・藤原、2014)

* 以下15スライドは日本学校音楽教育実践学会第19回全国大会発表資料より抜粋。一部藤原加筆。

対象 P小学校 第4学年 14名

期間 20XX年5月から11月



1.実態把握

1)音楽の授業（2時間）

授業者:筆者

学級全体

教師が提示した音楽に合わせて体を動かしたり、表情をかえたり

能動的に音楽を聴いていた

音楽を聴き感じたことの

記入ができない

記述量が乏しい

1)音楽の授業（2時間）

授業者:筆者

特別な支援が必要であると感じられた児童

A

学校では、話すことがほとんどない。

B

学校では、自分から進んで話すことがない。

C

落ち着きがない、また思いついた行動や発言を行ってもよいかわかる前に実行してしまう。

D

特別支援学級に在籍。
「わかる」「できる」と思う活動には自信をもって取り組むことができる。

2)アセスメント

グループ	児童番号	正解数(総満点)	知覚	感受	つながり	合計
①	1	5	1	0	0	6
	☆2	4	3	1	0	8
	3	5	3	0	0	8
	☆4	6	2	0	0	8
	☆5	5	4	0	0	9
	☆6	4	3	3	0	10
②	7	5	4	1	0	10
	8	6	5	0	0	11
	9	5	5	1	1	12
	10	5	2	6	0	13
	11	6	4	4	0	14
	12	6	4	3	1	14
	13	5	7	3	0	15
	14	5	8	2	0	15

※児童番号は、合計得点順。

☆印は、特別な支援が必要であると感じられた児童。

2.授業実践

授業の実際

授業者	授業Ⅰ	授業Ⅱ	授業Ⅲ	授業Ⅳ
題材曲 作曲者)	バディネリ (バツハ)	バディネリ (バツハ)	白鳥 サン＝サーンス)	担任
共通事項	クラリネット独奏 ボーラン(長調)	クラリネット独奏 ボーラン(長調)	音色	音の重なり
工夫Ⅰ (教科)	i ワークシーの工夫 ii 音楽の提示の仕方の工夫 iii 学び合いの工夫			
工夫Ⅱ (+特支)	①絵カードを用いたアウトプット支援 ②話し合いの視覚化 i カードに名前を記入 ii 作業を取り入れる iii 絵カードに身近な絵を用いる			
配慮				

- 13 -

授業 I における躰き

感じたことを言葉にする・話し合いが難しい

教科教育

音楽鑑賞指導における知覚・感受の可視化
(小島・兼平, 2010) (山崎, 2010) ほか

特別支援教育

知的発達遅延の遅れに応じた 分かりやすい指示や教材・教具の提供の例「視覚化」
(文部科学省, 2013)

臆黙児への支援における非言語的コミュニケーションの促進の例「視覚化」、
指示の具体化の例「視覚化」
(かんちくネット, 2012)

視覚化

焦点化

共有化

工夫 II (＋特別支援教育)

i 絵カードを用いた感情のアウトプット支援

鑑賞の授業における内部世界のある児童生徒へのアプローチ
ー「感情カード」をとおした発達障害のある児童生徒への (尾崎, 2012)

ii 話し合いの視覚化

i 絵カードを用いた感情のアウトプット支援の例

はねるような

感じが

うさぎ

にぴったりだから

ii 話し合いの視覚化の例

タイトル 晴れの日の動物園

あったかい

ぼかほか

げんき

名前 しおり

はねるような感じ

あったかい

がな一

強そう

強そう